

事業報告等

第16期

自：2025年3月 1日

至：2026年2月28日

一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクト

事業報告

1 法人の概況

(1) 設立年月日

平成22年3月2日

(2) 定款に定める目的

がん医療に携わる医療者の育成支援と、がん患者とその家族および一般生活者に対する啓発活動と情報提供を行い、がん医療の教育推進に貢献することを目的とする。

(3) 定款に定める事業内容（公益目的事業、収益事業等）

- i 各種媒体における情報提供事業
- ii 教育・啓発セミナー事業
- iii 専門家育成のためのプログラム開発支援事業
- iv 海外留学支援事業
- v 前各号に掲げる事業に附帯又は関連する事業

(4) 会員（社員）の状況

社員数：14名（2026年2月現在）

(5) 主たる事務所・従たる事務所の状況

主事務所 東京都港区新橋2-20 新橋駅前ビル1号館4F

(6) 役員等に関する事項

役 職	氏 名
理事長	福岡正博
専務理事	津川浩一郎
常務理事	上野直人
常務理事	朴成和
常務理事	山本信之
理 事	奥山裕美
理 事	佐治重衡
理 事	中西洋一
監 事	金谷政徳

(7) 職員に関する事項

事務局長 笛木 浩

2 事業の状況

(1) 事業の経過及びその成果

1) Japan TeamOncology Program 2025 (J-TOP)

◆ 2025年度プログラム運営のための会議開催

1. 第1回日米執行委員会 (2025/2/11)
2. 第2回日米執行委員会 (2025/3/11)
3. 第3回日米執行委員会 (2025/4/8)
4. 第4回日米執行委員会 (2025/5/13)
5. 第5回日米執行委員会 (2025/6/10)
6. 第6回日米執行委員会 (2025/7/8)
7. 第7回日米執行委員会 (2025/8/12)
8. 第8回日米執行委員会 (2025/9/9)
9. 第9回日米執行委員会 (2025/10/14)
10. 第10回日米執行委員会 (2025/11/11)
11. 第11回日米執行委員会 (2025/12/9)
12. 第12回日米執行委員会 (2026/1/20)
13. 第1回運営委員会/J-メンター会 (2025/2/25)
14. 第2回運営委員会/J-メンター会 (2025/3/25)
15. 第3回運営委員会/J-メンター会 (2025/4/22)
16. 第4回運営委員会/J-メンター会 (2025/5/27)
17. 第5回運営委員会/J-メンター会 (2025/6/24)
18. 第6回運営委員会/J-メンター会 (2025/7/22)
19. 第7回運営委員会/J-メンター会 (2025/8/26)
20. 第8回運営委員会/J-メンター会 (2025/9/23)
21. 第9回運営委員会/J-メンター会 (2025/10/28)
22. 第10回運営委員会/J-メンター会 (2025/11/25)
23. 第11回運営委員会/J-メンター会 (2025/12/23)
24. 第12回運営委員会/J-メンター会 (2026/1/23)
25. 広報委員会 (2025/3/1)
26. 広報委員会 (2025/4/5)
27. 広報委員会 (2025/5/3)
28. 広報委員会 (2025/6/7)
29. 広報委員会 (2025/7/5)
30. 広報委員会 (2025/8/2)
31. 広報委員会 (2025/9/6)
32. 広報委員会 (2025/10/4)
33. 広報委員会 (2025/11/1)
34. 広報委員会 (2025/12/6)
35. 広報委員会 (2026/2/7)
36. Project ECHO 実行委員会 (2025/3/6)
37. Project ECHO 実行委員会 (2025/4/4)

- 38. Project ECHO 実行委員会 (2025/5/1)
- 39. Project ECHO 実行委員会 (2025/6/5)
- 40. Project ECHO 実行委員会 (2025/7/3)
- 41. Project ECHO 実行委員会 (2025/8/7)
- 42. Project ECHO 実行委員会 (2025/9/4)
- 43. Project ECHO 実行委員会 (2025/10/2)
- 44. Project ECHO 実行委員会 (2025/11/6)
- 45. Project ECHO 実行委員会 (2025/12/4)
- 46. Project ECHO 実行委員会 (2026/2/5)
- 47. みんなでつくるがん医療プロジェクト定例会 (2025/3/17)
- 48. みんなでつくるがん医療プロジェクト定例会 (2025/4/21)
- 49. みんなでつくるがん医療プロジェクト定例会 (2025/5/19)
- 50. みんなでつくるがん医療プロジェクト定例会 (2025/6/16)
- 51. みんなでつくるがん医療プロジェクト定例会 (2025/7/21)
- 52. みんなでつくるがん医療プロジェクト定例会 (2025/8/18)
- 53. みんなでつくるがん医療プロジェクト定例会 (2025/10/20)
- 54. みんなでつくるがん医療プロジェクト定例会 (2026/1/19)

◆イベント事業

1. 第6回 CAP-J Workshop

Career Development Program for Team Members in the Field of Oncology

「質の高いチーム医療に貢献するためのチームの一員に必要なキャリア形成」をテーマにしたワークショップを、J-TOP チューターと共催企業の社員を対象に開催した。

日時：2025年4月20日(土曜) 国立国際医療研究センター(東京都新宿区) および オンライン(Zoom ミーティング) ※ハイブリッド開催

共催 スポンサーセミナー：

武田薬品工業株式会社、日本イーライリリー株式会社

協賛：中外製薬株式会社

参加者総合計：50名

J-TOP チューター46名(医師：14名、看護師16名、薬剤師16名)

企業オブザーバー3名、講師1名

2. チームオンコロジーセミナーオールジャパン2025

～日本のみんなとつながるがんチーム医療～

2025年度テーマ：災害時のがん診療におけるチーム医療のありかた

日時：2025年5月10日(土)、11日(日)

会場：京都府立医科大学病院基礎医学学舎(京都府京都市)

共催 スポンサーセミナー：エグザクトサイエンス株式会社、MSD 株式会社、第一三共株式会社、ファイザー株式会社、日本イーライリリー株式会社

協賛：中外製薬株式会社

参加者：計 35 名 医師 11 名、薬剤師 5 名、看護師 18 名、MSW1 名
実行委員・J-TOP チューター 22 名、ゲスト講師 8 名、
オブザーバー 15 名 総合計 80 名

3. JME Program 2025 Japanese Medical Exchange Program

JME MDA 2025 および JME Hawai'i 2025: 留学研修プログラム

2024 年に選抜された EPOCH メンバーの内、6 名(医師 2 名、薬剤師 2 名、看護師 2 名)を
米国(ハワイ大学がんセンターおよび MD アンダーソンがんセンター)研修プログラムに派遣した。

(1)ハワイ大学がんセンター: 医師 1 名、看護師 1 名、薬剤師 1 名

プログラム日程: 2025年9月15日(月)～9月26日(金)

※9/13(土)ハワイ到着／9/27(土)ハワイ出発／9/28(日)日本帰国

テーマ:がん医療格差の課題とがん治療の将来に目を向け、チャレンジするべきことを明確にする。

重要事項:先住民ハワイ人、太平洋諸島系住民、およびアジア系住民における
がんの健康格差に関する実態とその活動を知る。

米国ハワイでの本研修は、先住民ハワイ文化の独自性も対象とする。

ハワイは地域社会へのアウトリーチに深く根ざしており、地域文化も学習対象とする。

ハワイ大学がんセンターとの協働で得られた成果

多文化対応能力の強化: 多様な文化背景を持つ患者に対応するための、医療従事者の多文化理解
とコミュニケーションスキルの強化

離島医療の現状と限界についての理解

コミュニティアウトリーチ戦略の組み方と実施

EDI(平等、多様性、包括性)の戦略立案とその実施

(2) MD アンダーソンがんセンター: 医師 1 名、看護師 1 名、薬剤師 1 名

プログラム日程: 2025年10月13日(月)～10月24日(金):

※10/9(木)ヒューストン到着／10/25(土)日本帰国

目的:

1. MD Anderson Cancer Center (MDA) における多職種連携のがんチーム医療を学び、
がんチーム医療における医師・薬剤師の役割を学習・習得する。
 2. MDA が全米 No.1 のがん専門病院である理由を探索する。
 3. Mission & Vision を創出し Career Development を明確化する。
- 臨床現場の見学、講義の受講、グループ発表により目的を達成した。

4. The 4th Team Science orkshop Strategies for Empowered Teams

“Innovative Team Approaches to Rapid Changes”

～変動の時代、革新的なアプローチでチームをエンパワーする～

第 1 部: 2025 年 12 月 7 日(土) オンライン(ZOOM)開催

第2部：2026年1月10(土)、11日(日)、12日(月)

於：国立国際医療センター

参加者：合計：56名（日本：41／台湾：2／韓国：1／タイ：2／フィリピン：5／ベトナム：4
マレーシア：1）

医師：23名（日本：16名 / フィリピン：4名 / ベトナム：2名 / 台湾：1名）

看護師：12名（日本：11名 / ベトナム：1名）

薬剤師：12名（日本：8名 / タイ：2名 / マレーシア：1名 / 韓国：1名）

ヘルスケアワーカー：1名（フィリピン：1名）

ソーシャルワーカー（日本：1、ベトナム 1、台湾：1）

理学療法士：1名（日本：1名）

がんサバイバー：4名

USメンター12名（医師：6名、看護師：3名、薬剤師：2名、コンサルタント1名）

日本/アジアメンター24名（医師：11名、看護師：5名、薬剤師：7名、遺伝カウンセラー1名）

日本/アジアチューター25名（医師：6名、看護師：6名、薬剤師：13名）

医学生オブザーバー：9名、企業オブザーバー：8名、サバイバーオブザーバー2名

総合計 136名

協力：MD アンダーソンがんセンター、ハワイ大学がんセンター

エンドースメント：アメリカ臨床腫瘍学会 ASCO(American Society of Clinical Oncology)

※ASCOとエンドースメント契約を締結し、ポスターとwebサイトにASCOのロゴを記載した。

スポンサードセミナー：アストラゼネカ株式会社、エグザクトサイエンス株式会社、

日本イーライリリー株式会社、ファイザー株式会社

協賛：中外製薬株式会社

5. Web 会議システムを活用した双方向のセミナープロジェクト「J-TOP Project ECHO ONE」

Project ECHO は MD アンダーソンがんセンターが、がん治療のより良い成果のため、取り組んでいる重要な教育プログラムのひとつで、J-TOP は Project ECHO の日本の拠点として、実行委員会を設け、日本国内およびアジア諸国のがん治療の課題をテーマに情報提供を行っている。

プロジェクト名：J-TOP Project ECHO ONE (Oncology Education Network)

実行委員会：リーダー 医師 1 名、サブリーダー：医師 1 名

医師：12 名（日本 4 名、台湾 3 名、フィリピン 2 名、米国滞在 1 名、ベトナム 1 名）

看護師 6 名（日本 4 名、台湾 1 名、海外滞在 1 名）

薬剤師：6 名（日本 4 名、フィリピン 1 名、タイ 1 名）、公認臨床心理士 1 名

2025 年 3 月～2025 年 11 月の ECHO ONE Clinic 開催実績（計 16 回）

多くのがん医療者が判断に迷う難しい症例および専門医療者の役割、コミュニケーション戦術などをテーマに取り上げた

第 70 回(3/13): Cancer Rehabilitation (がんのリハビリテーション)

第 71 回(3/25): SICP – Serious Illness Conversation Program (倫理的課題を含む事例への対応)

第 72 回(4/25): 抗がん剤治療中に心毒性をどのように監視・検出するか？

第 73 回(4/28): CIPN

第 74 回(5/21): 3rd Line Management of Colorectal Cancer Focusing on Modified Chemotherapy

- 第 75 回(5/29): Trousseau's syndrome and cancer-related stroke
- 第 76 回(6/20): The role of maribavir for cytomegalovirus(CMV) infection
- 第 77 回(6/23):化学療法に伴う脱毛
- 第 78 回(7/25):カヘキシアのマネジメント
- 第 79 回(7/30): Managing Side Effects of Immunotherapies used in Breast Cancer)
- 第 80 回(8/28):Interprofessional Education / Working-
- 第 81 回(8/28):エンド・オブ・ライフにおけるケア
- 第 82 回(9/24):CINV (ADC 製剤への嘔気コントロール)
- 第 83 回(9/24):抗真菌薬治療を受ける小児患者におけるベネトクラクスの投与量
- 第 84 回(10/28):運動腫瘍学のエビデンスと実際
- 第 85 回(11/20):がん患者の呼吸困難マネジメント

6.「みんなでつくるがん医療プロジェクト」

医療外の企業や団体との連携強化を図るため、企業や各種団体と連携する取り組みとして、「みんなでつくるがん医療プロジェクト」を実施した。

2025年度の実績:

セミナー動画を J-TOP の Web サイトにて公開

テーマ「乾燥が気になるお肌に、毎日のスキンケアを」

※昨年度より継続して実施

コラボレーション企画動画(スキンケア動画)の YouTube 配信

※昨年度より継続して実施

キュレル製品やサンプル品を希望施設に送付

7. Tutors Candidates' Education Program "EPOCH."

EPOCH は質の高いキャリア形成とチーム育成をサポートをするチューター候補のための教育プログラムです: Educational Program for TeamOncology Tutor Candidates to support High-Quality Career and Team Development

3rd Team Science Oncology Workshop (2025 年 1 月開催)で選抜された

チューター候補 15 名を対象に計 7 回のオンラインセミナーを実施

医師: 4 名 (日本: 3 / フィリピン: 1)

看護師: 4 名 (日本: 3 / 台湾: 1)

薬剤師: 7 名 (日本: 3 / タイ: 2 / 韓国: 1 / マレーシア:

EPOCH 2025 Program 開催実績 (2025 年 7 月~11 月・計 6 回・Zoom 開催)

Icebreaking and Self Introduction (7/26)

Mission & Vision, SMART Goal (8/23)

Leadership and social sensitivity (9/27)

Career Development and Mentorship (10/25)

IDP sheet (11/8)

15 名全員が EPOCH を修了し、J-TOP チューターとなった。

8. Web コミュニケーション&ネットワーキング事業

(1)-2 Web site: TeamOncology.com

(1)-2-1 会員数およびサイト総ページビューほか

1. チームオンコロジー会員数：3,164 名 ※2026 年 2 月末現在
医師：788 名／看護師：677 名／薬剤師：699 名／
その他の職種、患者、一般：1,000 名
2. 総ページビュー数：月間約 7,000～10,000 (YouTube を含む)
3. 制作 Web ページ総数 (TeamOncology サイトのみ)：100 ページ以上

(1)-2-2 コンテンツ

1. ミニブログ X(旧 Twitter) および Facebook ページ『Cancer がん 癌 No More』によるチームオンコロジー情報の発信
2. メールマガジンによるチームオンコロジー情報の発信
3. Facebook グループなどの SNS サイトやメルマガリストを活用した、がん医療者のコミュニティ構築
4. 掲示板活性化のための新カテゴリ造設制度 (チューターのやりたい事支援企画) の構築
5. YouTube の各種動画コンテンツを活用したオンデマンド学習「TeamOncology Video Lectures」
6. チームオンコロジーセミナー2025 開催各種 Web ページ制作
7. 4th Team Science Workshop 開催各種 Web ページ制作
8. Project ECHO ONE の開催案内・各種 Web ページ制作
9. みんなでつくるがん医療プロジェクト Web ページ制作
10. ウェブサイト移転に伴う各種コンテンツページのリニューアル
11. チューター・メンター・会員向け限定コンテンツの作成
12. ウェブサイトアクセスログの収集および月間報告作成

(1)-2-3 衛星サイト 7 サイトの現状 (2026 年 2 月末現在)

1. Facebook ページ「Japan TeamOncology Program」「Cancer がん 癌 No More」
(ファン数 5,500 閲覧者数 (週間) 約 2,000～3,000 人)
2. Facebook グループ「Japan TeamOncology Program グループ」(メンバー数 800 人)

(1)-2-4 広報委員会

1. 広報主催「なんでも交流の集い」(毎月第1土曜日 20 時から開催)
2. 広報主導で各イベントにおいて SNS での発信などを実施した。

(1)-2-5 web コンテンツ委員会

1. 広報委員会から新たな Web コンテンツ企画運営チームを立ち上げた。
2. J-TOP のクリエイティブな活動の場を創出
 - ・ がん患者さんご家族のためのお料理教室
 - ・ がん関連あるある情報
 - ・ J-TOP な人たち

- J-TOP ラジオ
- TeamScience WIKI
- スペシャリストに聞いてみよう

2) My Oncology Dream (MOD) Project

◆MOD ホームページについて、写真の掲載(個人情報の流出)が社会の流れに添っていないと判断し、web サイトを閉じることとした(2025年9月末)。

3) Japan Health & Oncology Practice Enhancement(J-HOPE) Program 2025

◆プログラム運営のための会議開催

1. J-HOPE ファカルティ会議：第1回クリニカルワークショップ(2025/2/27)
2. J-HOPE ファカルティ会議：第1回クリニカルワークショップ(2025/3/16)
3. J-HOPE ファカルティ会議：最先端がん治療セミナー(2025/7/31)
4. J-HOPE ファカルティ会議：最先端がん治療セミナー(2025/10/27)
5. PEP 実行委員会(3月より2月まで月1回 第3木曜日に開催)

◆イベント事業

1. The 1st Creating and Leading Innovative Clinical Science Workshop

日程：2025年3月21日～23日(金土日)

場所：東京大学医科学研究所 1号館会議室 〒108-8639 東京都港区白金台 4-6-1

目的：仮説に則った臨床研究を自ら立案・主導し、日本から世界に向けてエビデンスを発信できるがん領域における次世代の Clinical Investigator を育成する

成果：参加者自身が応募時に作成・提出した LOI について、研究コンセプトをより明確化し、科学的かつ実現可能性を踏まえた試験内容に整えると同時にそのプロセスを学ぶ

対象：既に臨床試験/治験の経験があり、早期探索臨床試験を実施できる素養を有している

腫瘍内科医：11名

協力：ハワイ大学がんセンター

共催：一般社団法人オンコロジー教育推進プロジェクト、

福田班「共同研究グループ間の情報共有によるがん治療開発研究の効率化と質的向上のための研究(国立がん研究センター研究開発費：2023-A-13)」

スポンサードセミナー：アステラス製薬株式会社、大鵬薬品工業株式会社

後援：日本臨床腫瘍学会

2. 最先端がん治療セミナー2025「究極のがんマネジメント：

Supportive Care～QOL 改善と治療効果の向上を目指して」

目的：本セミナーは、医師、薬剤師、看護師などの医療者がそれぞれの視点で患者を的確にアセスメントし情報共有した上で、エビデンスの有無やレベルを考慮しながら個々の患者に最適な支持療法を実践するためのチーム対応法を全員で議論し、実臨床につなげる。

日程：2025年11月15日(土)～16日(日)

場所：九州大学病院第2薬局棟2階(アイン薬局九大南店)大会議室 (福岡県福岡市)

共催：アストラゼネカ株式会社、大鵬薬品工業株式会社、メルクバイオフーマ株式会社、
アムジェン株式会社

協力：九州大学病院、九州大学病院がんセンター、九州がんプロ事業運営推進協議会

教育助成：アステラス製薬株式会社

後援：日本臨床腫瘍学会

協賛：中外製薬株式会社

参加者：27 名（医師 9 名、薬剤師 6 名、看護師 12 名）

ファカルティ・講師、ゲスト講師 15 名、 共催企業 9 名、 総合計 51 名

3. 医療者がリードするがん患者の患者力向上のための啓発プログラム

（PEP: Patient Empowerment Programs Led by Cancer Care Providers）

日本癌治療学会・ファイザー株式会社からの助成金を活用して、2025 年度は
下記の 5 つの事業を実施した。

（1）地域別「医療者がリードするがん患者カワークショップ」

【2025 年度実施地域と開催日程および参加者内訳】

第 1 回関西 3 月 23 日（日）開催（済生会野江病院、大阪府大阪市）

参加者 29 名（医師 3 名、看護師 21 名、薬剤師 3 名、理学療法士 1 名、栄養士 1 名）

第 2 回北海道 8 月 2 日（日）開催（勤医協中央病院 北海道札幌市）

参加者 31 名（医師 8 名、看護師 12 名、薬剤師 5 名、理学療法士 2 名、栄養士 1 名、NSW2 名、
事務 1 名）

第 3 回東北 8 月 23 日（土）開催（竹田総合病院、福島県会津若松市）

参加者 23 名（医師 2 名、看護師 6 名、薬剤師 9 名、栄養士 1、MSW 2、その他 3 名）

※その他は薬剤助手等、薬剤関連業務員

第 4 回東北 10 月 5 日（日）開催（総合南東北病院 福島県郡山市）

参加者 20 名（医師 6 名、看護師 5 名、理学療法士 3 名、言語聴覚士 1 名、MSW 4 名、
その他 1 名）※その他は介護支援専門員

第 5 回関西 10 月 19 日（日）開催（済生会野江病院、大阪府大阪市）

参加者 22 名（医師 4 名、看護師 16 名、薬剤師 1 名、MSW 1 名）

第 6 回東北 11 月 30 日（日）開催（仙台徳洲会病院、宮城県仙台市）

参加者 24 名（医師 2 名、看護師 16 名、薬剤師 2 名、理学療法士 1 名、作業療法士 1 名、
栄養士 1 名、MSW 1 名）

第 7 回関西 12 月 14 日（日）開催（松下記念病院、大阪府守口市）

参加者 25 名（医師 1 名、看護師 17 名、薬剤師 4 名、MSW 2 名、社会福祉士 1 名）

(2) 統計プロジェクト

参加者にアンケート（開催前、開催直後、開催3ヶ月後）を実施し、その内容を統計分析した。久留米大学バイオ統計センター室谷健太教授の研究室に協力していただいた。

(3) 「第7回医療者がリードする患者力向上ワークショップ」

目的：医療従事者が患者力の重要性に気づき、患者力を引き出すための知識とスキルを身につけ、実臨床に即した教育（プラクティカルサイエンス）の普及をおこなう。

結果として患者の治療効果をあげる成果につなげる。がん診療に従事する医師、薬剤師、看護師、その他の医療職が、(1)患者力とは何か、(2)患者力を引き出すために必要な知識とスキルは何かを、参加型ワークショップを通じて学ぶ。

日程：2025年12月20日-21日

場所：エールエールA館6階（広島県広島市）

ランチョンセミナー共催：アストラゼネカ株式会社

協賛：中外製薬株式会社

参加者25名（医師9名、看護師8名、薬剤師3名、作業療法士1名、MSW1名、チャプレン1名、医療機器メーカー社員2名）

(4) PEP 症例検討会

毎月第一月曜日に症例検討会を開催し、関連する症例を取り上げて、医療者が患者力をいかに向上させることができるかを実行委員会のメンバーが検討している。

アドバイザー：石井 均（教授、奈良県立医科大学医師・患者関係講座）

伊藤 高章（チャプレン：立正佼成会附属佼成病院）

(5) 広報活動（web サイト、学会発表、プレスリリース）

①web サイトの更新

参加者のみならず広く医療者を対象にした啓発ビデを作成し、サイトに掲載した。

また、活動内容について、web に掲載した。

②書籍の発行「患者力」を引き出すためのスキル・ツールキット（東光久編集）

3. 社員総会、理事会等に関する事項

i. 社員総会、理事会

開催日	会議名	決議事項等
2025年5月25日	社員総会	2024年度決算報告 2025年度予算報告
2025年5月25日	理事会	2024年度決算報告承認 2025年度予算報告承認

4. 役員等の兼務の状況

区 分	氏 名	兼務する他の法人名	兼務内容	備考
理事長	福岡正博	和泉市立総合医療センター	参与	医師
専務理事	津川浩一郎	聖マリアンナ医科大学	主任教授	医師
常務理事	上野直人	ハワイ大学がんセンター	センター長・教授	医師
常務理事	朴成和	東京大学医科学研究所 附属病院	病院長 教授	医師
常務理事	山本信之	和歌山県立医科大学	教授	医師
理 事	奥山裕美	昭和医科大学先端がん 治療研究所	助教	薬剤師
理 事	佐治重衡	福島県立医科大学	主任教授	医師
理 事	中西洋一	地方独立行政法人 北九州市立病院機構	理事長	医師
監 事	金谷政徳	銀座スフィア税理士 法人	代表	公認会計士